THE LADIES' JOURNAL OF EDUCATION.

驛遞局認可

明治十九年九月五日

定價金四錢

女學雜誌

第三十五號

每月三回發行

績文舍

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

目録

●〔女學叢誌〕○婦人ハ一家の外交官●〔中外新報〕拾件●〔學藝一班〕植物學一班●〔對譯〕●〔列女傳〕松月尼の傳●〔雜記〕英國の圖十郎が演說○洋服裁方の原理○反古帳●〔新作物語〕巣守の妻第五回〔春のや主人〕●〔家政要報〕主婦の心得●〔御伽草〕人の猿眞似外貳件●〔寄書〕婚姻弊害論○婦智を進むるの策

◎女學叢誌

婦人ハ一家の外交官

總て動物ハ禽獸蛆虫に至るまで一箇別々に生活するもの甚だ稀にして集散常なしとハいへ多くハ同類相集りて群をなすその性質あり況て人間ハ交通生類といふなれば人々相集りて社會をなし可成多くの人々と交通して相互に可成大いなる幸福を得んと計るの外ハ人たるもの〻務めなかるべしされば家盛んに官高く商賣職業の繁昌して人にも羨まる〻程よ幸多き身となるに隨ひ世の交際も廣かるべく交際廣ければ隨て出入の客も多かるべし之をいひ換ふる時ハ交際廣くして客の出入多きハ家の繁昌なり繁昌なる家ハ必ず幸福なりといふべし人の生活の目的ハ可成多くの幸福を得んとするにありとせバ取も直さず一家の目的ハ可成交際の廣からんとを勉め可成人の出入の多からんとを勉むるに外ならず然すればその家に出入する人々ハ大切なる御客にして客を欵待すハ一家の大事なりといふべしこれたゞ一家の上よ於てのみならず一國一社會の上に於ていふもまた然りさるからに人の世にある限りハ人々相互に客商賣を營むものなりといふも左までの過言にハあらざるべし扨てその客にハ種々樣々ありて親友もあればたゞ一通りの知交もあり主人より上官の人もあれば屬官もあるべく教師先生もあれば弟子書生もあるべく商賣上の御得意もあれば職業上の出入先もあるべく醫者も來れハ防主も來るべく女も來り男も來るべく怒り上戶あれば泣上戶もあるべくその身分性質千種万類なるべけれども苟にも客と名の附く限りハ假令ひこれまで見も知らぬ人の初めて來りたるよもせよ各々その品級に隨ひ夫相應なる取扱ひをなすと一家を修むるもの〻要務なりされぱとてその家の主人たるもの日々斯く樣々の客に接し笑ふてのみハ居られざる事ならん大くいへば一國一社會小くいへバ一家一身の利害榮辱に關して〻泣もし泣せもし怒りもし怒らせもする事あるべく商賣上の掛引もあれば職業上の意氣地もあらん意見もすればせられもすべく一度いひ出してハ男氣の引くに引れぬ事も生ずべし然れば長き月日を多くの

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

人と交はる中にハ平生交際上の鐵鎖も一朝よして絶え果なんとするとあるべし是ぞ浮世の定めなき習ひとしもいふべき歟この時に臨ミ傍よりこの鎖を繼ぎ止むるの役目よ當るものハその家の細君にあらずして誰なるぞさりとて傍よりその事に喙を容れて直接に之が仲裁をなすべしといふにハ非るなり婦人ハ元温柔にして能く剛を制するの性あるが故に平生の交際を圓く滑ならしむるハ固り一朝風波の起るに當りても一擧一動一瞥一視に心していはず語らず優柔不斷の間よ於て間接に平和を計るの妙手段を施すにありと思ふなり少く淺薄なる引例のハ知らざれども近く維新前の事なりとか或る雄藩甲乙の間に事起りて双方より使臣を派し談判を開かしむるに當り乙藩にて使命を受けたる何某といへるが竊に思へらく甲藩の士ハ殺伐粗野を以て世に聞えたるとにしあれば此度の談判も平和の落着を望むと難かるべし時機に臨みてハ一死も顧る所ならねどさりとて事の破れたらんにハ死とも何の詮あらんとて兎やせん角やと雲時心を痛めたりしが屹度思ふ仔細やありけん軈て談判の席よ臨みたるに甲藩の使臣も名にし負ふ殺伐なる雄藩の士なりければ刀引附け片唾を呑んでいざといはゞ目よ物見せんといはぬばかりに控えたる折しも乙藩某氏の差圖に隨ひ夥多の婦人出來り茶菓を運び酒肴を勸め左右前後を取巻きて接待等閑ならざりしかば流石の勇士も氣抜して稍々和らぎさる機に乘じ乙藩某氏ハ緩々と事の始末を語り出でたりしに左しもに入り組たる談判も難なく平和に落着せりとハ乙藩何某の頓智を賞する談柄なれどもまた以て婦人の交際上に必要なるを證するに足るべきなり世に客商賣といへる業を營む家にても多くハ婦人の主管たる所を見れば客に接して廉立ず世の交際をして圓く滑かならしむるハ婦人の役目にしていと適任とこそいふべけれ左れば婦人ハ一家の外交官にして他家に至りて特命全權公使の任に當り家にありてハ外務大臣の職を執るものと心得世の交際を重んじ一家の幸福を計るべき心懸なかるべからざるなり

◎中外新報

◎共立女子職業學校　今度有志の紳士淑女たちが發起して設立せられたる錦町の共立女子職業學校にてハ生徒の數既に五十餘名に達したるよしなるが敎員中にハ高等女子師範學校の女敎師たちが無給よて敎授し居らるゝ向もありと聞く素より婦人の敎育に熱心なる方々なりとハいへ感心なる事なり

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○米國學校の數　此頃弊舍へ達したる米國教育雑誌中に同國にて大學校および專門學校の數は三百七十にしてその生徒六万五千二百二十八醫學校の數百四十五にしてその生徒一万五千三百人婦人に高等の教育を授る學校は二百三十六にしてその女生徒三万五百八十七人なりとありまた米國中宗教學校の數は百四十六生徒の數五千二百九十八にして教師の數は七百五十八人なりといへば生徒七人に付教師一人の割合なりとあるを見ても米國宗教の盛なるを知るべし

○看病婦學校　海軍々醫の方々に縁故ある夫人令孃を以て組織したる愛生社にては附屬學校を建設し臨床、繃帶の諸科を初め病者を看護するに必要なる學科を教授するの企てありといへり病者の治癒するとせざるは其病症の輕重にも因べく其醫藥の良否にも依るべきも第一番に關係の尤も重きものは看護の善きと悪しきにあり左れば歐米諸洲の如きは此の看病を以て慈善の行為とし看病婦を敬愛するの習なるに我か國にては全く之れに反して輕侮するの風あるより自然と看病婦となるを愧るものあり若し悪しき心を以て推す時は些少の報酬にて普通に嫌悪する疾病の看護をなすものなりとも思はざるべきも正しき心よりして見ればその勇氣と義心の厚き尤も美はしき慈悲心の深きは敬愛するに餘りあるべし吾曹は先きに今日の社會に敬重せらるゝ貴婦人が自ら卒先して愛生社を組織せしを祝せしが今日また看病婦學校設立の企てあるを聞くの欣びを得たり吾曹は深く貴婦人がその天性の美に發したる功勞を感謝し一日も早く看病の事をして榮譽ある業たらしめんことを望むものなりと去る廿八日の日々新聞に聞ゆ

○教員の年齢　我か國教員たるものは多くは年若にして二十前後のものなるがゆゑに教授上眞正の熟練に乏しきことは余輩の憾なきと能はず開進の日尚は淺き國柄にありては是非もなき事ながら歐米にては稀れに教員二十年臺あるがありとて新聞記者などは喫驚するほどの事なりと見え近着の米國婦人雑誌に「米國中學校教員にて最も年若なるはテキサス州のオスカー、クーポルといへるにて今年廿三歳なりと聞くがさてもく年若き教員かなと」ありたり

○貴婦人交際會　嘗て本誌に記したるごとく米國公使の夫人が催ほさるゝ貴婦人交際會は酷暑の為め暫く休會せられしが時事新報の報ずるところに據れば昨四日より初めらるゝよしなり

○學問上の三職業　學問上の職業といふは宣教師、法律家

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

および醫師の三つをいふなるが米國にて此職業に從事せる總人員は千八百八十年(明治十三年)の調べによるに男女うち混へて廿五万四千五百廿八人にしてその內宣教師六万四千六百九十八人法律家六万四千百三十七人內外科醫師八万五千六百七十一人齒科醫一万二千三百十四人藥劑家二万七千七百人なりこれを人口よ比較れば人口二百人中に學問上の職業をなすもの一人の割合にして宣教師と法律家とは大なる違ひなければ各々人口七百八十二人に一人の割合なりまた內外科醫師は人口五百八十四人よ一人の割合にて齒科醫は四千八人に一人の割合なりといふ我が邦にては僧侶の數最も多きとならんが他の法律家と(俗にモグリ代言といふを除き)醫者齒醫者(神農の畵像に禮拜するものを除き)とは如何ほどの割合にあたれるよや定めて少き事ならん

○高等女學校　上野公園地四軒寺町文部省用地の高等女學校は帝國大學構內の舊法學校跡へひき移らしめらるゝよしにて目下協議中なりといふと二日の日々新聞に見えたり

○夫人の贈物　日下長崎縣知事の夫人かめ子外十四名の夫人がたより支那兵暴動の際負傷したる警官等に毛布一枚づゝを贈られたるが今その毛布に添へて贈られたる文の寫しを得たれば左に掲ぐ

朝日に匂ふ山櫻花と昔し人のいひけむやうにこたび外國船の異人等がなみのさわぎをしづめむとえなどの風にあふなくも八十氏人の太刀はせに秋の木の葉のちるごとく跡はかもなく治りしは皆ひとの能く知るところなれどそが爲に身をいとはですゝまれしかたがたのあまた手疵負ひ給へるありとかこれ全く御國の爲に命を塵よりもかろむじ義を山よりも重んせられしなれば日下氏かめ子をはじめ同じこゝろざしのをみな等うちつどひ君たちが重き枕よつきそひ看護の助けせばやと思ふもならはぬものゝするわざなれかへりてわづらはしくやおはさむさはれおくばかり痛ましう思ふこゝろのいとのかたはしをだにとていとおふ〳〵しかれど各々がたへ敷ものの一枚づつまゐらす用ひ給はゞうれしうこそさらぬも堪えぬこの日ごろいとゞあへしうおはすらめと八しまの外も敷嶋の大和ごゝろをふりおこしいよ〳〵猛く健かにおはしましねといのるになん明治十九年八月廿四日小野みち、松岡みち、淸水きい、須田いく、吉田きさ、師岡のぶ、阿部內、嘉村內、小山內、依田とも猪飼たつ、富永きち、河西こと、佐々木わさ、牧野八重、瓜生內山脇とる、池上つね、田代內、山根すゑ、吉田とみ、野間口內、金

五百七十一

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

井内、白上貞子、日下のめ子、(宛名略す)(八月廿七日鎭西日報)

○伊國の后宮の行啓　伊太利國のマーゲリア后宮と申し奉るハ年々羅馬府の諸學校を巡覧あらするの例なるがこのほど同府の女子職業學校に到らせ生徒の製したる刺繡およびレース等を御覧なせてことの外賞させたるよしに承もる同校の生徒中造花術に長じたるもの多くろの製品ハ世の人も最も珍重するところなりと英國女皇新聞に見えたり

○通俗學藝志林　大坂淡路町二丁目十三番地通俗學藝社より發兌する同雜誌の第二號を寄贈せられたるが記事精確印刷鮮明學藝上必讀の好雜誌なり

◎學藝一班

○植物學一班

第一章　總論

植物學を修むるにハ先づ生活せる草木に就て實地にその構造などを調べ夫々部分〳〵の作用等假令へば葉も何の用をなし根ハ何の働をなし花ハ何の爲めに咲くものなるやといふがごとき事を研究するが最も良き方法にていと面白きものなれば婦人方の慰み半分に研究し給ふにハ誠に適當しき學問なり追々左にこの學の大要を説き出さん

植物ハ生物にして恰も動物が動物界をなせがごとく植物もまた植物界をなし發生するより追々に成長し終に枯るゝに至るまでの順序また食物に依て成長繁殖するなどのとハ動物と異るところ無けれどもさゝその温度ハ上等動物のごとく高からずして水空氣と同じきなり

扨て植物生活の長短に限りありて一度花を開きたる后ち直ちに枯るゝものありまた限りなきものハ時々花を開きて長く生活そるものあり第一限りある種類をアンニユーアル(一年枯)といひて麥、豆などのごとく一年或ハ一季節限りの壽命あるものなり第二ハバイエニアル(二年植物)といひて甘藍、蕪菁實芰荅利斯等のごとく通例第二年目の季節に至り花咲て枯るるものなり第三ハ多年花を持たず或ハ生涯に一度花咲て枯るるものゝ他總て松樫のごとき樹木の類にして之をペレニアル(無限植物)といふなり

地球の外面何れの處にも植物のなき處ハなかるべしといへども國によりて相違あり季候熱くして水氣多き所にハ多く生じ且つ種類もまた多し然れども極めて寒く或ハ乾きたる土地および太洋太湖等の最も深き所にハ生ずること絶えてなし熱帶

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

より寒帶の地方に行くに隨ひ草木の種類を減ずるのミならずその大サもまた隨て小くなるが通例なれども南濠太剌利亞のゴム樹カリフオルニヤのウエリントニアといへる樹木ハ非常に大なるものなるがこれ等ハ例外なりまゝ寒國の海草ハ熱帶地方のものよりも大なり我が北海道の昆布のごときも本國の熱き海に生ずるものよりも大いなり

植物ハ今現に地球の外面に生活するものゝみならず古代の植物の死骸ともいふべきが深く地の下にある岩などに化したるを所々にて發見するとありこれらに就て見る時ハ現世に近きものはど現世の植物に似寄りて遠きほど似る事少くして時によりてハ全く形を異にしたるものあり然れども極々古代のものハ却て現世のものと異るところなく光線、温度、水氣等の事情も同じかりしと見え發生の事情現時の植物と同一なりしがごとくに思ハるゝといへりこれらハ古生物學者の專ら研究をることにて生物進化の有樣などを發見するにハ甚だ要用なる事なれども婦人方の研究にハ先づ現世の植物に就き研究をなしたるのち古生物をも研究し給ふべし我が邦にても時々化石を發見する事あり化石など集むるもまた一つの樂しみとなるのみならず他日研究の用をなすべきなり

（未完）

MAXIMS & PROVERBS.

泰西の箴諺

(甲) Never judge from appearance.
㊀㊄ ㊃ ㊂ ㊁

〔意譯〕外見に由って裁判を下す勿れ

(乙) Much is expected where much is given.
㊅ ㊇ ㊆ ㊀㊄ ㊁ ㊃ ㊂

〔意譯〕澤山與ふれば澤山を當てにする

(丙) Knowledge is no burden.
㊀ ㊃㊁㊄ ㊂

〔意譯〕智識ハ幾等荷負ても重からず

(英語) My son is my son till he gets a wife; but my daughter's my daughter all her life.

(譯) Watakusi no musuko ga Watakusi no musuko de imasu nowa musuko ga nyōbō wo motu made desu ga, musume wa musume no shōgai watakusi no musume desu.

◎對譯

○泰西箴諺の直譯

(甲)㊀決して㊁外見㊂から㊃裁判する㊄勿れ

(乙)㊀そこに㊁多く(が)㊂與へ㊃らるゝ㊄所に㊅多く(が)㊆待受け㊇らるゝ

(丙)㊀智識(ハ)㊁一の㊂荷物(で)㊃ある㊄なし

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

◎列女傳

○尼松月の傳　（前號の續）

嫗はおう〳〵に涙おし拭ひつゝ妾は笠置の麓の村に年久しく住る櫟野の文太夫と呼るゝ者の母に侍り文太夫は人にも知られし孝心深きものにて朝ゆふに意をつけ毫ばかりも粗略にするとなく家はた貧しからねば萬あかぬ事なく樂しく老をおくれるに思ひ懸ぬ俄の洪水に船に乗物にと立ち騒けど問にあはず先づこれに入り賜へとて長櫃に入れて舁出し小高きうしろの岡に移して只今たゞ何處にもあれさるべき處に誘ひ參らすべければ暫時がほど耐しのび賜へかしとて引かへしつるが程もなく此岡にも水つきぬと覺しくて櫃傾ぶきぬ是や我身の限なるべしと思ひて佛の御名稱へしが其後は如何ありけむ夢のこゝちにて物も覺えず老の身は斯ながら水泡と消え失むも惜からねど我子の尋ねまどひて知れずもあらばよも只には得あらじかし必ず深き淵にも入り高き枝に縊れもして不孝の罪を償はむとや思ふらむ此事の最悲しう歎かしう侍れば斯てあるよし告知らせらるゝ便あらば知せて賜へかしといふに尼はいろぎ人さがし覓めて告知らする様を語りあはすれど船路も陸路もひとつに海のやうになりて道絶えぬれば一日二日が程に使の者出たゝすべき体にも見えず然りとて放棄おかむもいとあぢきなし如何はせむと躊躇ひしがふと思ひつくとありて此岡つゞきに檜板つくる處にゆきて幾束ねか購ひ來つゝ此板に櫟野の文太夫ぬしの母刀自はしか〳〵の處に恙なくて在すれば疾迎へに來られよ櫟野に知る人ありて此と記せるを見ば如何にもして告知らせ賜へかしなど懇にかきて末に伏見の墨染の里の尼松月とかい記して前なる流れにながし遣りつ山々の落水今もなほ涸るゝとは見えぬ庵の前のいさゝ小川も瀬の音高く流るれば況して大河は限りゆくさま目眩めくばかり早ければ流しつる檜板は幾百枚と數もよまれず多なれど漂ふひまもなく悉皆ながれ出つ笠置の文太夫の家にては床上に水のつくとひとしく妻子家財をうちすてゝ先づ第一に母を長櫃に入れ家のうしろの岡の木陰にさし置せ遣戸部などを筏に組みて妻子を助け出し辛く舟一艘を覓めきて再びもとの岡にやりて母を迎へとらせむとせしに岡の土の崩壞しと覺くありし木も倒れゐて半は水に入り這根白う洗はれて見ゆれど長櫃はいづち往けむ影だに見えず沈みやしぬらむと傍り隈なく探りもとめもし流れの末々殘る處なく捜しつれどふつに見えぬは如何

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

し侍らむと漕かへりて告るに爭で驚き歎かざらむ家も庫も底の水屑となりて我々皆溺れぬとも母君だに扶け參らせむこそ本意なれ行方知れず漂はせ參らせて生存らへむは不孝の罪もおそろしく且は人ぎきも影護しと物狂おしきまでに立騒ぐをある限りの人々おし宥め慰めつゝ此處かしこより船あまた漕ぎ出しつゝ木津八幡より淀のわたりまでも尋ねもとむる折しも常々大坂へ材木積み送りて賣り渡す何某がもとより櫟野のかた心もとなしとて小船には屈竟のふなこ三人を乘せて艪をおさせ陸には二人の人して綱を引かせ登り來るに遭へり此男ども夫と見て聲をかけ其船なるは櫟野の人々にはおはせぬかおのれらは何某より見て參れとて

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

殊更に出されたる者にてさふらふとて無事なるとも語りあふ序に只今此下つ瀬に檜板の五ひら六ひら浪のまに〳〵落ち下るをふと見るに櫟野とかけるがあるに目留りて拾ひ揚げたるに毋刀自へ伏見の云々の里に恙なくて在する由を記したるが變らせ賜ふともなきにや先此檜板を見られよと出そを取りて見れば全く此事をとく報知むとてせし所爲と覺しく戯れでとゝしも思はれねば大阪の人にハ委しくとのありしさまを告て此處より漕ぎ歸らせ船を櫟野にもどして斯といへば文太夫ハ此檜板を額におしあてゝよゝとばかり嬉し泣になきつゝ這ハ母君が旦暮念じ賜ふ御佛の救ハせ賜ひしなるべく御行方知られし上ハかた時も後れさせて多く物を思はせむハ道にあらじとあるが中に宜しき船を撰びてみづから打乗り船子を急がせて伏見に漕ぎ下り松月尼と聞ゆる尼君ハ何れの御寺におはするにやと問すれば其ハ墨染のかたほとり山のたづける草庵にいと貧くて住せ賜へるが此度の洪水にも云々の奇特なると在しけりなど彼の恵みの概略を語ればさればこそ尋常の人にハ在しまさゞりけれと一層信をましてやをら其庵のこなたに漕よせつ柴垣をのしう結廻らしたるが稍荒て野分のなごり著く崩れたる處も見ゆれど内外ハ塵ひとつだになく淨らに掃きよめたるに萩のこぼれかゝりて匂へるに閼伽棚にも時の花ども折させる桶わりて是れにはひあひたる浮世の物に似ず懸樋の水のあまれるを苔深き庭の中に遣り流せるなど見る物ごとに身にしむこゝちせられて家を漂ハせ人を溺らせつる淀の流れとハ水の心も同じからず彼ハ苦しき海に入り是ハ心の塵をあらひて眞如の月を澄すにこそあらめと思ひつゞけながら立入りて音なへば態とならぬ稱號ある聲はたと止みて何方より來ませるぞ笠置のふもと櫟野よりのお人にはあらぬか然らば疾こなたへといひつゝ出來るハ迎へ人遲しと待ちつけつるなるべし(未完)

◎雜記

○英國の團十郎が演説

ヘンリー、アルヴヰン氏といへるハ當時恰も英國の團十郎ともいふべき俳優にて殊に學問にも深しとハ余輩の疾くに聞くところなるが今クヰーン新聞を見るに近頃の事とかオキスフオルド大學校總長の案内に應じ同大學校に至り一場の演説をなしたるよしにてその大意を志るしたり演劇改良説の盛んなる今日に當りてハ多少の參考ともなりぬべければ左にこれを

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

譯出しぬ知らず日本の團洲梅香莚舛諸氏ハ帝國大學に至り多くの文學美術學者を集めて滔々演說をなすの氣力と識見ありや否さて英國の團十郎の演說大意ハ左のごとし

諸君ヨ演技ハ可成作爲の虛飾を去りて自然を演するを旨となすべきなり余ハ今古來俳優中にてこの主義を取れるもの四大家を擧げてその時代〳〵に隨ひ一々簡短に批評を下さんと欲するなりその四大家とハ即ちボルベージ。ベテルトン。ガリックおよびキーンの四人なりさて自然天然萬事万物の有樣ハ恰も一大戰爭に異らず彼のセーキスピーアハその思想より自然に發現したる無韻の詩に於て能くこの自然戰爭の有樣を盡したりされはセーキスピーアもまたこの自然天然の有樣を演ずるにハ作爲と虛飾とを以てすべからず作爲と虛飾とを廢するが爲にハ能く天眞を演し得る俳優の助けを假ずてハ叶はずと考へ當時愁歎塲を演するに上手なりとて名高かりしリチヤード、ボルベージを得て自然の有樣を演せしめたりボルベージハ英國の俳優中其前にハ嘗て見るべからざる大家にして當時セーキスピーヤの高尚なる院本を演する多くの俳優どもの模範とせるところなりし然るにその頃ハ現今と違ひ舞臺の周圍甚だ暗く光線の不充分なりしと音調の完全ならざりしとよて演技の際殊に困難にして且つ當時多くの俳優ハ夫々の人物に扮裝つの巧妙ならんことを勉むるよりも寧ろろの筋を暗誦するを以て俳優の目的となせしがごとくに思ふなり扨てベテルトンハチヤーリス第一世の料理役なりしがろの廿四歳の時演劇上の履歴よ入りてより追々上達して當時の俳優中首席を占めたること五十年間を超過せり革命により人心の新奇を好むに乘じて世上の歡心を得出て演技する每に演劇の益々高尚ならんことを勉めたりベテルトンの死してより五十餘年を經てダウヰッド、ガリックといへるが現はれたりガリックハ再び自然主義の演技を舞臺の上に中興せんと勉め千七百四十一年といふ年一躍して他の俳優が多年間勉强して漸に達し得るの地位に上りたり氏の技倆ハ誠よ天然自然に迫りたるものにして技藝甚だ細密なりしまた再びセーキスピーアの演劇を世に盛んならしめたるハこの人の力にして且つ劇場を改革し翼棚およひ舞臺より他の場所に見物人を移して演者の足元の光線を得ることを主張し遂にろの功を全うせりさてまたエドモンド、キーン氏に至りてハ能く見物者の精神を奪ふの妙を得たる人にて之を評するにハキーンハ嘗て舞臺に現はれたる人々の中空前絕後の妙技を演したる大家なりといふを以て充分ありと

五百七十七

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

思はる甞てコルレッチ氏曰くキーンの演技を見るに閃電の光りにてセーキスピーアの院本を讀むの心地せりといへり適評れりといふべきなり以上の四大家は各々自家の一新機軸を出したる人々なれども演技の主義即ちその精神に至りては皆同一に自然をして已が技術を管理せしめざるは一人もあらざるなり自然に從ふ事は美術の奥義なり諸君退て熟思せば余が認ざるを悟るべし(記者思へらく我々もまた社會の舞臺に立て活劇を演ずるの俳優に外ならずされはアルヷサンのこの演說に於て大に悟るところなくんばあらざるなりと)

○毛髮の事(前号の續き)

毛髮は彈力ありて引延ばす事の出來るのみならず案外に强き力あるものなり或る人各種の毛に就て如何ほどまでの重量を保ち得るやを試驗たるに或る人の毛は凡そ七千八百ゲレイン(凡そ百四匁五分五厘)の重量を保ちまた年齡五十七歲の男の毛にて最も强きものは殆んど二万二千ゲレイン(凡そ三百七十九匁五分)の重量を保ちたりといへり毛髮の數は平均一人の頭に凡そ十二万本ありといひまた甞てヒンドース人の中には人の妻たるものその夫死して火葬をなすに當りその死躰の燒くる上に乘る時は直ちに天上して夫の全躰の毛の數と均し

き年限を快樂に暮すとを得るとて男子の毛を勘定するに奇怪なる方法を用ふるの習慣ありたりしが大凡総躰に三千五百万本の毛ありといふ

アフリカ洲實地視察家なるド、サイル氏の說話にアフリカに於て或る日毛髮を斬り戶外に捨てたりしが暫くして人の集りて騷動する樣子なるに驚き何事にやと立出たるにその地方の王とも思しきが多くの從者を隨へ來り從者どもは彼の捨たりし毛髮を我一勝に爭ひ取らんとする樣なりければその故を問ひたるに斯る色の毛を所持なすものは幸ひを得るとて斯くは爭ふなりと答へたりしとぞアフリカの土人中にも毛を貴ぶの風習ありと見えたり(以下次號)

○洋服裁方の原理(三十三號の續き)

第三。寸方を取らるゝものは兩手を延べて肩と水平の位地を保ちまた延ばしたる兩手をその儘前の方に延ばして之を上に揚げて肘を數度廻すべしこれ肩の後部にある三角筋を動かすが爲めなりこの三角筋といふは常に最も多く動く筋肉なるがゆゑに寸方を取るときもまた斯のごとくして能く動かす時は聊か寸方を延長せりさて尺紐を後部の中眞に當てその所より思ふ長サの幅を取るべし茲に假りにこれを七インチとす夫よ

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

り左の手にて尺紐を肩に當て右の手にて肘の先までの寸方を取るべし之を假りに十八インチとす夫より左の手ハその儘にして右の手を以て尺紐を手腕の骨の上に延ばすべし之を廿八インチと假定す即ち6−18−28と記載すべし

第四。尺紐を肩に置き夫より腋下にて腕の外面を廻はして再び肩にて合し寸方を取るべしその寸方を十五インチ四分の三と假定すまた尺紐を腕の同じ所に置き緩く腕を廻はして取るべし之を十二インチ半と假定す次ぎに緩く肘を廻はして二倍となるほどに取るべし之を十一インチ半とするの次ぎに手を合はして肘紐の廻はりを取るこれを九インチと定むべし即ち15$\frac{3}{4}$−12$\frac{1}{2}$−11$\frac{1}{2}$−9.と記すべし

第五。(斜の寸方)再び尺紐を脊骨の上端に置き肩を越えて胸部の中心に引き寸方を取るべし之を玆に十四インチと假定し夫より腰部の前面に延ばし上の長サを廿三インチに裁さんと思はゞ之を十九インチと假定す即ち14−19−23と記すべし

第六。尺紐を咽喉の正中に置き前面を腰部に下り之を十四インチと假定し總長さにてハ廿一インチとなる即ち14−21と記載すべし

第七。頸の寸方ハカラーを卷く所にて取るべし若し此處にて取りがたき事あらば頸の廻りを取り之に一インチを加ふべし即ち13$\frac{1}{2}$と假定して記すべし

扨て爰に至り夫々直接に取りたる寸方ハ左のごとし

2$\frac{3}{4}$-14$\frac{3}{4}$-26.
33-1$\frac{1}{2}$-26-7-42.
6-18-28.
15$\frac{3}{4}$-12$\frac{1}{2}$-11$\frac{1}{2}$-9.
14-19-23.
14-21.
13$\frac{1}{2}$.

右ハ仕立職人の記載すると同様の記載方なれバまたこれに倣ふべし總て寸方を取るにハ一度ならず二度ならず眞正の寸方を取り得らるゝに至るまで幾度にも前記の方法に從ひ寸方の取直しをなすべし

○反古囃

粉の看板

和名抄に粉和名之路妓毛能と見ゆ長明四季物語に春のきたるやうに覺えて云々空の氣色よべみしにハうちりてもなだのかみに粉つけたるやうに所々白うみなされ云云とあれば粉といふも古き稱へなりさて元祿のころ粉の看板に白鷺をゑがきたることあり按ずるにこれ白きものといふもんじ物なるべし錢湯風呂屋に木もて箭を作りいだして目印とし弓射れといふを湯入といふにもんじさせたる類ひながら更らに雅なりと或る書に見えたり

「前號この欄内「造作なし貸家」と題する終りに「以下次號」とあるハ「畢り」とあるべきの誤植なれば正誤そ

五百七十九

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

◎新作物語

○巣守の妻　第五回　　春のや主人稿

所は新橋の「ステーション」、小間物店の欠伸の聲、十時を告る時計の音、やう〳〵サビの付きし夜半の景色、主なき待合の長腰掛は、チンとかしこまッて四面寂寥なり、乗後れたる人も俟あきてや、多くは外に出て彼地此地ぶらつく、但見「ステーション」の直側なる、小さき待合の茶屋の床几へ、久しう憩ひたる母子と思しく、男は洋服の旅姿、母は見送りの餘所ゆき衣裳、いづれも賤しからぬ容躰なり（母）ダが新作、今朝諸紳士と御一所に發途ば、如斯に悠然とは話しもできず、何だか殘をしいやうであらうに、濱で御一所になるやうになつたは……殊に九時半に乗おくれて、色々いひ忘れた事もいふたし、誠に宜い都合でありましたヨ（新）ハア、それはさうと阿母、どうか何分にはよも……エー、アノ（母）民の事かい、ア、承知したヨ、心配には及ばぬ、お前は瀧口へといふけれども、如何してあんな家へ、あの口の輕い御内方へ、一日二日でもあづけられはせぬ、それこそ乍地に惡い風説が、……兎に角此母が承知しました、明日よも氷屋へ出向いて往ッて、直にも引取ッて來ませう程に、必ず氣を揉むには及ばぬと、假にも結髮であッて見れば、正可に打擲ッてはおのれぬ所へ、……あのうな不品行を仕出來した上は、お前の一生の不幸といふもの、エ、温厚くて氣立が宜ト、サア如何位氣立がよくても、あんな賤しい者、學問のないのは宜いとしても、あの取做、あの言葉遣ひ、お前は恥だとは思ひませぬの、ダが更めて如斯なことを、繰返していふも女の愚知、モウ〳〵出來た上は爲樣もない、成べく惡い沙汰が聞えぬ様、早速あの娘を家へいれて、エ、うんお事はいふまでもない、お前があの娘で辛抱して、一生連添うとお思ひなら、よしんば教育が惡るからうと、嫁に相違ない、女に……エ、里といふは邪慳な養母、外に歸ッてゆく家は……サア其事も妾が承知、立派に奥さまに……兎も角人並には教育まう程に、のならず……嗚呼段々と學問もわかり、立派に立身する身分になッたら、何様な良……エ、何さ、善い衣服や羽織を被せたら、言葉の遣ひ方も次第に改良ッて、……（折柄「ステーション」でジヤラン〳〵〳〵）チヤ〳〵鈴だヨ」ト身づくろひ、母は急がはしく立あがれば、男も若干歟の茶代を拂ひて、共に「ステーション」へ急ぎ向ふ、氣丈の母親とて惡びれたる体なく、「折角大切に身を保護て、無事で」トキッパリした離別の言の葉、再度の鈴の音のジヤラ

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

ンく、滊笛のピーと共よ車ハゴトく、空しく黒煙を殘して馳せく、若き頃ハ聞もしらぬ、万里の彼方なる亞米利加の都へ、おのが獨兒が今こそゆくなれ、怖ろしき波濤を越え、見もしらぬ人の國へとせく、蝦夷長崎の端をさへに、昔しハ凄じう思ひ做したるに、やうやう「二十三の世なれぬ子を」、遠き旅の空へ見送る身ハ、さすがに心細う裏悲しう、ホロリと我しらず取り落す白露、ソツと掌底にておし拭ふを、拭はで無情なる子供等に遣らばや、これぞ眞實の恩愛の涙、極めて悲しうして搔流す涙ハ元來人の身に當然の物あり、斯く悲しからで泣く涙にこそ一滴千金の價ひハありけれ、離別の際に灑がずとハ、猛き大丈夫の可愛意地、

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

聲に哭かざるは母親の男優さり、これゟは稱すべきのかぎりぞかし

人しらぬ愁をおしかくして、静かに「ステーション」を立いでつゝ、此方の石段を降る間に、「倅の行末」が塊まりとなりて、兎角に胸の邊を轉げまはるやうにて、いつしか足もとの神經がウッカリ、越野は段一ッ踏はづして、堅い土の上へヨロ〳〵「アレマアお危險い」ト優しい聲、小暗き軒陰からかけでる乙女子、いそぎはしり寄りて抱おこせば、「これはマアどしん切に、まことに濟ませぬ、有…難…チヤ〳〵お前さんはアノ何處かで…」〇つく〴〵と見ればお民なり、過日見たるよりも面瘦たれど、色は青きほどに白うなりて、紅 の唇さへ白ッちやけたれど、双の瞼のみは赤くぞはれたる、(民)あなたは御ぞんじでございませまい、ワタイは氷屋に居りまするアノ……(越)チ、まだあひませぬがお民とやら、ソシテなんの為めにいまごろ此所へ(民)昨日手紙を…「何」が手紙を呉れ……おくれなされたで、俄かに遠い地方へ往くのを知ッて、それで亭主公に頼みまして、ズット先刻から見送らうと思ッて……(越)それでは先刻からアノこゝに、何故マア貌も出さず(民)貌が出したいのはやま〳〵だけれど、ダけれどアノ「何」がきのふの手紙に、決して見送りをしてはならぬ、お前が貌だしてはおれの恥だ、その代りに慈母さんに頼して、後でよいやうに何するからト…それで先刻から暗いところで」、おとはいひさして俯きて泣く、

越野は上流に生長りて、雅びし容子にのみ目なれたるに、かゝる鄙びたる言葉をきゝては、鼻を惡しき臭に撲たるゝやうに思ひて、覺えず眉と眉を一所にしたるが「これが新作の嫁か」とおもへはいよ〳〵胸先が堅うなる心地、外づして逃げらるべき機會にしあらば、聽ても逃げ出でたく思はるれど、さすがに人情に纏はれては……ましてや無心氣にて憎みがたき、可愛き眼の中に涙をたゝへて、「どうぞお慈悲に」といはぬばかりなる、お民の罪のなき姿を見ては、いかでか憐愍む氣の起らざるべき、竟にうち連れて「ステーション」をたちいで、ともに家路へと足を向くれば「お安くまゐります」と勸むる車夫、直段を取り極て乘り移れば、(車夫)ホイ御隱居さまお危險い「御女中」お前さんは右の方へ、」件の一言は越野の胸へ、如何に針のやうにつき入りけん、されども肝腎の當人の耳には、殊なる感觸も與へざるにや、眉だに動かさぬ温順な貌色、越野はなか〳〵に切齒かるべし

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

◎家政要報

○主婦の心得（前號の續き）　右のごとき事柄は客よりして一々是れが無し彼れが足らぬぞとはさすがにいひも出られず他家に客となりたるものゝ不自由を感ずるは毎度の事なれば主婦たるものゝ注意肝腎なりさて朝餐よりその日の社交は初まるとなれどもまたこれその快樂は主婦たるものゝ心得一つに由ることなり若し主婦にして客の心をも圖らずおのが思ふ儘を仕通しいひ張らんとしてその客の思わく我が心に叶はざる事あらんには自然と不興の色容貌に現はれて疾くに客の去れかしと思ふ事を客に覺らしむる事あるべしかくてはその客もまた再びこの家に足蹈をなすまじと思ひ定むるに至り遂に相互ひの社交の鎖りは果てぬべしこれに引換へて主婦たるもの自分の心に思ふことをば更らに顧りみず一意に客の意に適ふやうにのみ心掛け如何なる取扱ひをなしたらんにはその氣に叶ふべきや否を考ふるときは如何なる客にも滿足を與へて主客ともに幸福を受くるの功を成し遂ぐるは左まで六かしきことにはあらざるべし斯く我が思ふ事を放擲り我が身を無きものとなせばとて決して我が身の威嚴を失ひ仲間同士の尊敬を欠くこと万々あるべからず却て餘義なく尊敬し面白からざるに勉**めてその家を訪問するがごとき事なく眞正の威嚴と尊敬とを**保つ事を得べきなり「外貌の式は常に内部の懇親を示す」といへる俚諺に悖らず外見のみならず内心の親睦を得ると疑ひなかるべしさて又客に對し不愛相の謝辭を述ぶるとは甚だ不用なり家事取締向不行届ならんには初より客を引受けざるまぞ優しならめ既に客を引受けたるうちには如何に巧みに愛相なき事を謝するもその謝辭は決て禮式にはあらず終日謝辭を述ぶるとも客の爲めには何の用にも立たざるのみならず客は却て不愛相を受けながら謝辭に對して禮を述べざるを得ず故に謝辭を述べんよりは客の來らざる前平生に主婦たるものゝ務めを實行するにありされば客ありとて俄に騷ぐ事もなく急に世辭を繕ふ事をも要せず非常に客の歡心を得んとして餘り世辭を飾るも客の爲めには却て心を痛ましむる道理と心得只常のごとく可成丈客の快樂を計るべし斯る時は客をして主婦たるの務をよく盡したりと感ぜしむるのみならず多くの快樂を與へ客は幸福と滿足とを以て立去るべし常よりも甚しく奔走して世辭をなすとは却て友人に信實を欲ふに當るなり（完）

○白米相場　去廿五日より一等一斗一升七合二等一斗二升四合三等一斗三升一合四等一斗四升四合五等一斗五升六合

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○人の猿眞似

人の原始ハ猿なりといふ進化論を初めて聞きたる人がうち腹立ちてかにのくに爭へバ此論を信ずる人ハ笑ひながら答ふるやう猿の人眞似といふ俚言あるハ其方も知るなふむが是ハ反對にて人の猿眞似ともいふべく傍の人のずる事の可否をも擇ばず眞似るハ未もとの性質の全く除き去らざる證跡なり又動もすればバ面をあかめて些の事をキヤツ／＼と叫びながら爲す事どもの尻の締りなく能く尾を出すも亦猿の進化したる證跡ならずやとぞ云ひける

○薔薇の紋

束髪にするのもようございますが川崎屋の紋の簪も成駒の針どめも挿せないから夫で厭忌ですハ。妾も左樣思ひますハ松嶋屋の誰かゞ早く薔薇の花の紋になればよう御座いますねへ

○文盲の推測

君ハ女學雜誌を見ぬか。アヽまだ手がまはらむで讀むが如何樣話があるテ。此比ハ橘氏の徒然草の講義も續いて出るし又源氏物語の大意も載せ初めたが簡短ゝ若御子の誕生迄をよく記てあるテ。那舍の編輯にハ講談師や本艸家も雇つて有と見る。何故く。夫でも橘や何草とかの講義があるに源氏の若御子の誕生迄出したといふから牛若の傳記が載てあるのだらふ

○數學問題

或る人鏡臺と針箱とを求めしにその價合して十二圓なり而て鏡臺の價ハ針箱の價に二倍すといふときハ各々の價幾何つゝなるや

○前號數學問題の答式

大數$=x$ 小數$=y$

$$\begin{cases} x+y=5760 \\ x-y=\dfrac{x}{5} \end{cases}$$

$$3x-3y=x$$
$$2x-3y=0$$

$$2x+2y=11520$$
$$2x-3y=0$$
$$5y=11520$$
$y=2304=$小數
$$x+2304=5760$$
$$x=5760-3404$$
$=3459=$大數

答
大數三千四百五十六
小數二千三百〇四

以上は答者の寄送に係るものなれども記者はまた左の一法を掲けて諸者に示すへし

$$2\underline{|6760}$$
$$1152$$
$$5760-1152=4608$$
$2\underline{|4608}$ $2304=2304$小數
$$2304+1152$$
$=3456$大數

答者の姓名ハ。東京岩見茂敏。芝隱士。台山池邊。房陽横山柳陰居士。山本すゞ子

◎寄書

○婚姻弊害論（三十三號の續き）　大嶋盛造　述

今それこの弊をのぞくにハいかなる方法を用ひん乎論者必ず言はん一般の人民を教育しその知識を開達して自ら同系結婚

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

の忌べきことを覺らしむるにしくものなしとこの論善きハもとより善し然れども果してこの論を行ハしむるも所謂優曇の華さき黄河の清めるをまつがごとく實に氣ながきことにて全國人民をして盡くその非を知らしむるの時ハ將た何れの年にかある願ふに寧ろ少しくハ壓制に出るも嚴重なる民法を選定して以てこれを矯むるにしかざるなりと抑も我國古來より癩病家と結婚するを忌むと殆んど毒藥猛獸のごとし何となれハ遺毒の子孫に傳ふるとを恐るればなり然らばこの一項ハ更に禁ずるとなくして人々自ら禁ずれば故らに法内に加へざるも可なる乎この頃聞く我が政府結婚條例を天下に頒布せらるゝと近きにありとその法例の如何なるやハ得てこれを窺ふ能ハずと雖ども蓋し婚姻年齡ハ勿論同系結婚もまたそのうちに編入せらるるものと私考せりもしまた等親を以てこれが制定を施すに至らば四等親以下を以て適格にすべきと思へりある有名なる學士某氏が婚姻ハ性質の相反せるものを以てせるハ最良の策なりとすといひまた血族を離るゝとの最も遠きものを撰て娶れば則ちその子の遺傳必ず宜しといひしハ能くその要を得たるの論といふべし若しそれ賢明政府の選定せらるゝ條例ハ果して余が敢て望むところにあらずや否果して望むところの條例を發布せらるゝにいたらば實に天下蒼生の幸福なにごとかこれに如んや(完)

○婦智を進むるの策　遠江　村松はな

近頃我邦の學士論客中大に婦人論を主張し天下の大勢輿論もまたこれに歸向し數千年來の陋習惡風を一洗し將に文明の眞面目を發揮せんとするに至れり豈に盛ならずや抑も斯く婦人論の盛に行はるゝに至りし所以の者ハ時勢氣運の然らしむる所の將た他に原因あつて然る歟妾ろの基因を詳悉せずといへども何に至せ東洋諸邦の如く數千年來男尊女卑の風行されたる國にして斯く婦人論の盛行するを觀て妾ハ我が日本帝國の爲めに賀し併せて妾等自身の爲めに私に喜悦する所なり婦人論につき或ハ新聞雜誌に或ハ演説討論に筆辨を振ハるゝ學者論客その人實に夥多し就中時事新報記者先生のごときハ三度の食事の外餘暇あれば則ち婦人論を爲すと實に熱心といふべしこれ妾等が特に該記者に向て千禮万謝する所なり斯く諸氏の熱心盡力ありと雖も妾等當局者にして改良進歩せる事を計畫するに非んば焉ぞ能く好結果を得るを得んや啻に好結果を得ざるのみならず所勞多くして所得少かるべし否俗に所謂草臥儲けの骨折損に至らん

(未完)

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

貴女至寶 大全活用姫鏡

正價金五拾錢ノ所御披露ノ為メ本日ヨリ三拾日間非常特別廉價金三拾錢ニテ發賣ス●郵券代用ハ一割増ヲ敬請ス●郵送料十二錢運遞送料六錢●既ニ製本出來ス勉メヨ勉メヨ

女子諸君學ベヨ學ベ婦人諸子○今此書ハ御身等ノ○為メヲ思ヒテ故ラニ○心ヲ籠メテカニカクト○綴リ集メシ者ナレバ○必ズ繙キ錫フ可キ○世ニモ得難キ書ナルゾ○先ツ其内ノ概略ノ○廉々擧ゲテ数フレバ○萬ツ衣服ノ縫裁チニ○禮義作法奧底ニ○身ヲ修ムベキ教ヘ草○言葉ノ使ヒ用ヒ方○歌ノ詠シ方綴リ方○茶ノ湯活花次ニ亦○折物包物ノシカ○紐ノ組方身ノ化粧○琴ニ三味線夫々ニ○合奏ツル諸歌ニ○歌カルタニ具ホ、イ○日用四季ノ文ノ範○婚姻儀式世帯方○料理ノ方朝夕ニ○覺ヘ置ク可キ諸妙術○飲食物ノ貯蓄方新發明ノ染方モ○急病即座ニ療ズヘキ○藥ノ用方迄モ○總テ御身等ノ常日頃○心得置ク可キ物事ヲ○三百十五又餘條○細大漏ラス所ナク○尚ホ共上ニ插畵ヲモ○假名ヲモ附シ書ナレバ○實ニ此書ハ御身等ノ○光リヲ添ル玉ナルゾ○實ヲ生ムノ田ゾ畑ゾ○讀メヨ讀メ讀メ此書ヲ

大賣捌所 東京々橋區三拾間堀一丁目 北春堂敬白

和漢古今名家詩文 圭玷新評 第五十三集

定價金五錢 八月廿日發兌

右ハ元來邦人ノ詩文ヲ删評シタルモノヲ掲ゲ來リシガ本集以下邦人ハ勿論文ハ韓柳歐蘇詩ハ李杜韓白等漢土ノ名家ト雖モ苟モ瑕瑾アルモノハ嚴正ヲ加ヘ大ニ詩文講究ノ便ヲ開カントス且集中ニ文藝雜話典故釋疑西洋英傑傳課題詩文等諸篇ヲ設ケ頗ル修正ヲ加ヘタレハ益購讀アランヿヲ希望ス

發行所 東京神田區雉子町 團々社

大取次所 大坂備後町四丁目 此村彦助

橘守部著述

●文章撰格

美濃判木板二冊 定價金九拾錢 七月發兌 郵便税金貳拾四錢

本書ハ祖父日本文章ノ正格ヲ論サン為ニ古書ハ勿論中古近世ノ諸書ニ照シ反復論定シタル書ニテ尤世人ノ貴重セル書ナリ既ニ出板相成候長歌撰格短歌撰格ヲ合セ机上ニ備ヘ歌文ノ蘊奧ヲ自得シ玉ヘ

豫約者準備上等製本百部限リ豫約第三號ニ順シ金七拾錢ニテ差上候間御望ノ者ハ御回金可被下候通運會向拂ハ郵税御添ニ不及候得共御居處近傍同會社支店アルノ宿驛御示可被下候將又本集同盟者分ノ豫約ハ開板後速ニ遞送致候此段併テ御案内致候

明治十九年八月 本所松倉町二丁目七拾壹番地 橘道守謹啓

本誌代價表

	正價	此郵税
壹冊	金四錢	壹錢
拾冊	同金三拾八錢	同 拾錢
二拾冊	同金七拾五錢	同 二拾錢
三拾冊	同金壹圓拾錢	同 三拾錢
四拾冊	同金壹圓四拾錢	同 四拾錢

但シ東京十五區内郵税不申請

本舍は御注文有之と雖とも前金御送附無之間ハ雜誌配達不仕事に相定候に付御注文の節ハ必ず代價郵税共郵便爲替又ハ郵遞便にて御送附あらんことを希ふ●郵券代用ハ壹錢切手ヨて一割増し●郵便爲替ハ芝區芝口郵便局へ御振込み共爲替券と本舍へ御送附可被下候 但し東京十五區内ハ御斷り無之間ハ引續き配達仕候

發行所 東京々橋區南鍋町貳丁目拾壹番地 績文舍

持主兼印刷人 松本義弘

編輯人 初鹿野鎌五郎

女學叢誌大賣捌

東京芝區愛宕町一丁目三番地	修正堂
同 神田區淡路町	巖々堂
同 神田區佐柄町廿一番地	東海堂
同 日本橋區新葭町	良明堂
同 牛込區肴町十七番地	活神堂
同 芝區愛宕下町二丁目	高槻堂
同 蠣殻町貳丁目	信文堂
同 本郷區本郷元富士町二番地	盛春堂閑田
同 同 本郷春木町貳丁目	解明堂
同 牛込區牛込樂神町	積善堂
大坂府備後町四丁目	岡嶋支店
千葉縣千葉本町一丁目	立眞舍
山梨縣甲斐常盤町	内藤傳右工門
藝州廣島大手町一丁目	早速社
江州彦根西内大工町	新々堂
陸前國仙台大町四丁目	木村文助

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY